

トビウオ通信 (H22 第 1 号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成 21 年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業 (かけまわし)

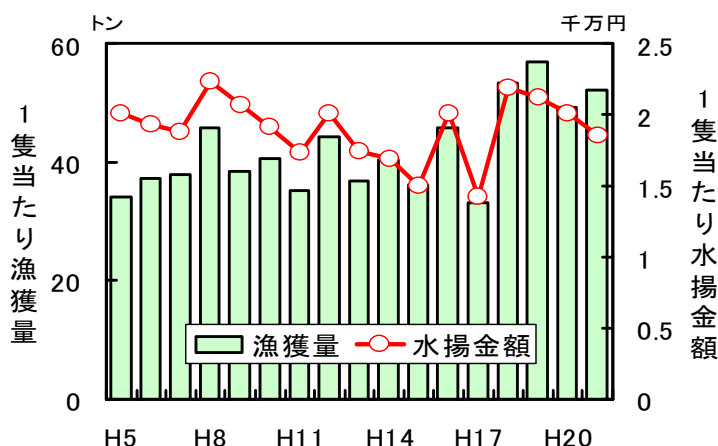


図 1 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量・水揚金額の動向(9~12 月)

1 隻当たり水揚げ金額、平年並み

島根県の小型底びき網漁業(かけまわし)55 隻*の平成 21 年漁期前半(平成 21 年 9 月 1 日~12 月 29 日)の総漁獲量は 2,866 トン、総水揚金額は 10 億 1,856 万円でした。1 隻当たり漁獲量は 52 トン、水揚げ金額は 1,852 万円で、漁獲量は平年を上回りましたが、水揚げ金額は平年並みとなりました(図 1)。今期は休漁明け当初からエチゼンクラゲの影響を受け、曳網回数の減少、破網など操業に支障をきたしました。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は 56 隻ですが、統計は 55 隻分の集計です。平年は過去 10 年平均。

カレイ類低調

主要魚種であるソウハチの 1 隻当たり漁獲量は 3.6 トンで、前年を大幅に下回り、平年の 7 割に留まりました。ムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 2.7 トンで、平年をわずかに上回りました。またメイタガレイの 1 隻当たり漁獲量は 0.6 トン、ヤナギムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 0.4 トンで両種とも平年の 7 割程度の漁獲に留まりました。カレイ類としては、ムシガレイを除く他の 3 種で平年を下回り、低調に推移しました。

ケンサキイカ、秋漁好調!

ケンサキイカの 1 隻当たり漁獲量は 3.7 トンで、平年の 2.2 倍の漁獲があり、秋漁は好調に推移しました。また、ヤリイカの 1 隻当たり漁獲量は 0.4 トンで、平年の 3 割に留まりました。

アンコウ・キダイ低調

ニギスの 1 隻当たり漁獲量は 8.8 トンで、平年の 1.6 倍の漁獲があり、好調に推移しました。アカムツの 1 隻当たり漁獲量は 1.9 トンで、前年を 36%、平年を 57% 上回りました。一方、キダイの 1 隻当たり漁獲量は 4.0 トンで平年をわずかに下回りました。アンコウの 1 隻当たり漁獲量は 3.8 トンで平年並みの漁獲がありました。キダイ、アンコウは平年並みの漁獲ではありますが、H19 年をピークに減少傾向にあります。また、近年漁獲量が増えているマダラの 1 隻当たり漁獲量は 2.3 トンで、H18 年以降まとまって漁獲されています。このほか、今期前半は、イボダイの漁獲量がエチゼンクラゲの来遊に伴い増加し、1 隻当たり漁獲量は 3.8 トンで、前年の 6.5 倍、平年の 1.8 倍の漁獲がありました。

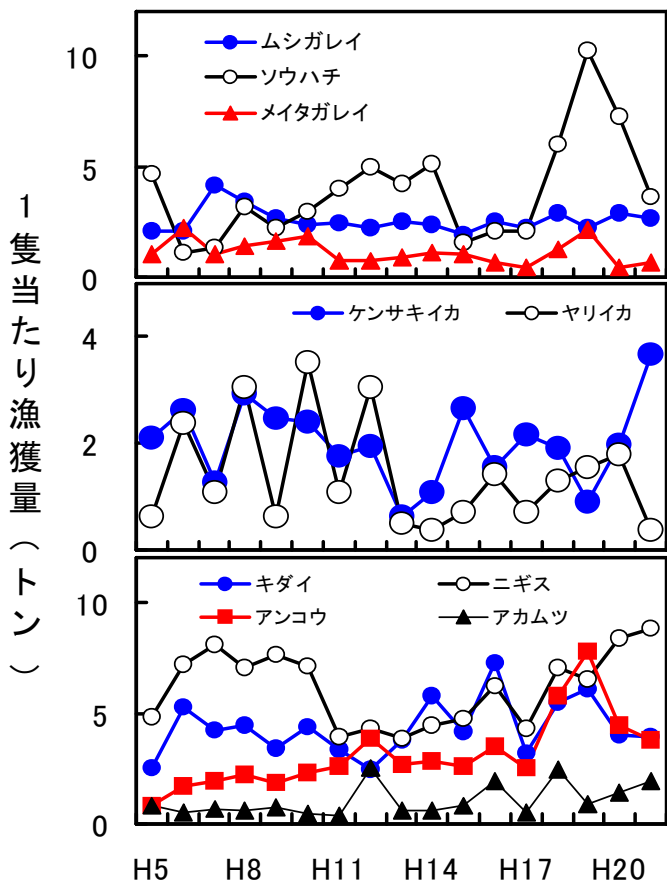


図 2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向(9~12 月)

沖合底びき網漁業（2艘びき）（県西部）

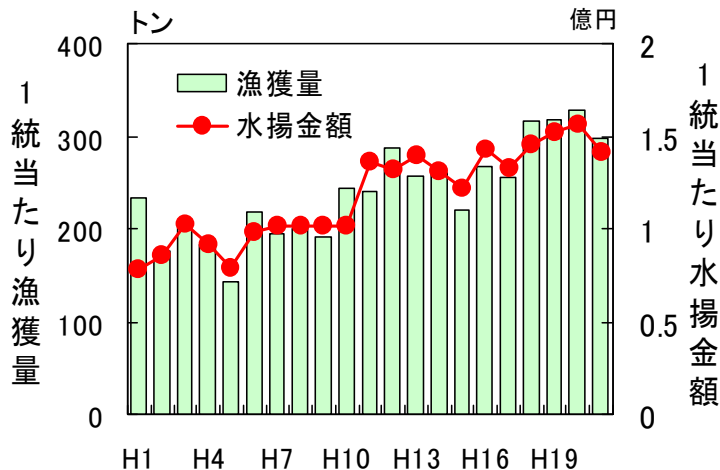


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における
1 統当たり漁獲量と水揚金額の動向(8～12月)

1 統当たり漁獲量・金額は前年をやや下回る

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(5ヶ統)の平成20年漁期前半(平成21年8月16日～12月29日)の総漁獲量は1,490トン、総水揚金額は7億613万円でした。1統当たりでは、漁獲量298トン、水揚げ金額1億4,123万円で、前年(327トン、1億5,590万円)の9割の水揚げに留まりました。一方、平年(過去10年平均275トン、1億3,891万円)では、漁獲量は1割程度上回りましたが、水揚げ金額は平年並みでした。

小底同様、休漁明け当初よりエチゼンクラゲの来遊により、破網など操業に影響を受けました。また、魚価の低迷により、水揚げ金額が伸び悩んでいます。

カレイ類低調！

主要魚種であるムシガレイの1統当たり漁獲量は54トンで、前年を2割下回りましたが、平年並みの漁獲となりました。ソウハチの1統当たり漁獲量は12トンで前年を大きく下回り、平年の7割に留まりました。また、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は11トンで、平年の約8割に留まりました。ムシガレイは前年を下回りましたが、期間を通して堅調に推移しました。一方、ソウハチでは島根沖冷水の差込みが弱かった影響により低調に推移しました。

ケンサキイカ 秋漁好調！

ケンサキイカの1統当たり漁獲量は28トンで、前年を下回りましたが、平年の1.5倍で秋漁は好調に推移しました。一方、ヤリイカの1統当たり漁獲量は2トンで、前年・平年の8割に留まりました。

イボダイ豊漁、アカムツ好調！

近年、資源が減少傾向にあるにアンコウの1統当たり漁獲量は14トンで、前年・平年の6割に留まりました。アナゴの1統当たり漁獲量は19トンで、前年をわずかに上回りました。キダイの1統当たり漁獲量は17トンで、前年をわずかに下回りました。アカムツの1統当たり漁獲量は11トンで、前年の1.4倍、平年の1.2倍の水揚げとなりました。例年は漁期前半にあまり漁獲されない小型サイズが安定的に漁獲されたことにより、漁獲が増加しました。また、ニギスの1統当たり漁獲量は10トンで、平年の7割の漁獲に留まりました。このほか、今期はエチゼンクラゲの来遊とともにイボダイ(地方名:シス)が豊漁となり、1統当たり漁獲量は37トンで、過去最高の水揚げとなりました。

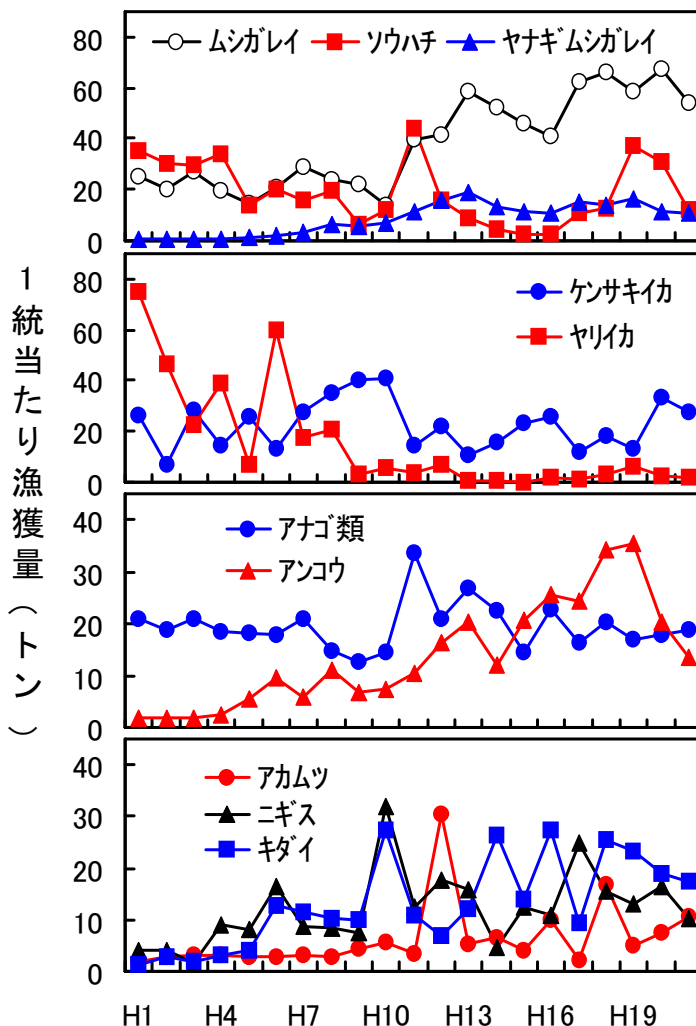


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における
主要魚種の動向(8～12月)